

市長から回答が届きました



村田 耕一
(公明)



高齢者バス等利用助成制度の拡充をすべき

Q 高齢者バス等利用助成額を6千円に増額し希望者にはシルバー定期券購入の一部に使用できるように制度の拡充をすべきではないか。

A 使用実績を分析した結果、令和5年度は助成金額3千円を維持する中で、バス等の乗車1回に使用できる助成券の枚数を拡大することにより利便性の向上を図る。シルバー定期券については、市内を走るバス会社の一部が実施しているため、調査・研究をしていく。



保育園おもひつ定額サービスの検討を行うべき

Q 保育園に持ち込むおもひつとおしりふきを、希望者には事業者から園に直接納品される定額サービス利用の検討をすべきではないか。

A おむつ定額サービスを実施する事業者は複数あり、サービス内容や取り扱う紙おむつもさまざまである。保護者と保育士双方の負担軽減のため、アンケート調査を実施し、希望者がどの程度いるのか、どのメーカーの紙おむつがよいのかなど、実施に向けて調査していく。



野村 諒子
(緑水会)



保護者研修などに参加しにくい家庭への配慮

Q 健やかな子どもの成長を促すためには親の学びの場や交流の機会が重要と考えるが、休みが取りにくい保護者への取り組みはあるか。

A 関係部署・関係団体が連携し、オンラインでのライブ配信など、さまざまな媒体を組み合わせ、保護者・参加者の多様なニーズに応えられるよう情報発信の工夫や改善を行い、休みが取りにくい保護者への研修を受ける機会の拡充に取り組んでいく。

文化芸術活動を推進し運営を担う人材育成を

Q 生涯学習や公民館活動など文化芸術活動が活発だが、活動を推進し運営する人材の不足が懸念される。改善に向けてどう取り組むか。

A 生涯学習分野では、既に日本大学公認学生団体がボランティアとして協力してくれているため、引き続き連携するとともに、学生や市民の参画を求める事業について、広く情報発信しながら、高等学校部活動との連携も視野に入れ、ネットワークの構築を図っていく。



佐藤 寛文
(無会派)



財政運営

Q 令和4年度の税収見込みについて、令和3年度との比較および令和4年度当初予算との差異を伺う。

A 令和3年度決算額170億円との比較では約3.4%、約6億円の増収、当初予算額174億円との比較では約1.1%、約2億円の増収を見込んでいる。これは経済の低迷からの個人所得の回復基調、企業収益の増加、新築家屋分、工業団地での大規模な償却資産の導入によるものである。

誰も置き去りにしないまちの実現に向けて

Q 生活困窮者支援の現状を踏まえ、令和5年度の格差是正対策にどのように取り組むのか。

A 令和5年度は、生活支援センターのホームページを新たに構築し、相談予約やZoomでの相談等、よりアクセスしやすい取り組みを進めていくとともに、コロナ禍で増員した相談支援員の5人体制を維持し、生活全般にわたる支援を関係機関と連携し適切に行っていく。



他の質問事項 ゴミ減量と施設計画

総務委員会
要望1 新庁舎の整備について

アクセシビリティや中心市街地の活性化に配慮した立地、サテライト機能の強化や自治体DXの推進、人口減少等を想定したコンパクトな規模かつ多様な柔軟性に配慮した設計を実現すること。

回答

市民意見等を考慮し、アクセシビリティや跡地等の有効活用など、市域全体の活性化に向けて場所の選定を進めていく。
また、オンライン等を通じて最寄りの施設から様々な手続きが可能となるサテライト市役所によるサービス提供など、DXの推進について調査研究を進めていく。
新庁舎は長期使用を目標とするため、将来人口推計を見据え、コンパクトな規模かつ、変化に柔軟に対応できる工夫を設計段階から考慮していく。

福祉教育委員会
要望2 認知症高齢者等の相談体制について

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、三島市の取り組み姿勢を広く内外に示し、各種団体・地域等との連携強化や環境整備を図ること。また、市民が気兼ねなく利用できる相談窓口体制を構築すること。

回答

街中ほっとサロンや認知症カフェの開設、認知症サポーターの育成、チームオレンジの整備等について、引き続き市民への周知を図っていく。
相談窓口については、もの忘れ相談会をはじめ、市内5カ所の地域包括支援センターや街中ほっとサロン、地域包括ケア推進課窓口等において、認知症をはじめとした相談が気軽にできる体制を整える中で、関係機関、団体等と有機的に連携していく体制を深化させていく。

経済建設委員会
要望3 まちなかりノベーション推進計画の若者の参画について

中心市街地活性化に向けてまちなかりノベーション推進計画が策定されたが、大学のある街として学生の力を活かすことが必要である。企画段階から学生の参画を促し、若者の意見・要望を反映させた事業の推進を図ること。

回答

大学生との連携については、計画策定段階に市内在住の大学生にヒアリングを行い、対象エリアの抱える課題や、魅力的なエリアになるために必要なことについて意見を伺い、計画書に反映した。
また、令和4年度に立ち上げた「まちなかりノベーション研究会」においても、各戦略の具現化に向け、学生に企画段階から参画を求め、若者の意見・要望を反映できるよう進めていく。

議会の活動

1月

- 10・11日 総務委員会行政視察
- 12日 議会運営委員会
- 13日 静岡県東部地区市議会議長会
- 18日 福祉教育委員会 議会報告会運営会議
- 26日 各派代表者会議

2月

- 2日 静岡県地方議会 議長連絡協議会
- 7日 各派代表者会議 議会運営委員会
- 14日～3月15日 2月定例会
- 14日 各派代表者会議 本会議 (議案審議)
- 22・24日 本会議 (代表質問)
- 22日 議会だより編集委員会
- 27・28日 予算審査(経済建設委員会)

3月

- 1・2日 予算審査 (福祉教育委員会)
- 3・6日 予算審査 (総務委員会)
- 8・9・10日 本会議 (一般質問)
- 8日 各派代表者会議 議会運営委員会
- 14日 議会だより編集委員会
- 15日 各派代表者会議 本会議 (議案審議)